第20回えびす・だいこく１００ｋｍマラソン

　５月２６日に島根半島を舞台にした「えびす・だいこく１００ｋｍマラソン」が行われました。そのマラソンの様子を伝えていきます。

　今回の大会は、２０回目の記念大会であり、さらにゴール地点の出雲大社は６０年ぶりの大遷宮ということもあり、大会史上最多の１，６００人を超える選手がスタート地点の美保神社に集まりました。

　１９９４年の第１回大会は、わずか１０数名の参加者にすぎませんでしたが、島根半島の風光明媚な景観や何よりも地元の方の心のこもったおもてなしが受けて、今の規模まで成長してきました。

　この大会名の由来は、「えびす（コトシロヌシ）」を祀る美保神社をスタートし、「だいこく（オオクニヌシ）」を祀る出雲大社をゴールとするところにあります。

　国譲り神話では、稲佐の浜にいたオオクニヌシが、美保碕にいたコトシロヌシに国譲りの意向を聴いたとされています。

　神話では、稲佐の浜から美保碕に向かって船を出したのでしょうが、現代に行われる１００ｋｍマラソンは陸路を行くことになります。

　この大会に参加する選手たちは、アップダウンの続く厳しいコースに加え、その時々の気象条件に苦労しながら１００ｋｍ先のゴールを目指していきます。曇り空にゆるやかな追い風に助けられたこともあれば、冷たい雨に打たれ続けたこともあり、ずっと前方から吹いてくる風に悩まされたこともありました。

　迎えた今年の大会は、数日前から高温が続き、当日もかなりの高温が予想される状態となりました。本殿に還り蘇った出雲の神は、選手たちに試練を与えるようです。

　私は、今回が１３回目の出場で、完走回数１０回を超えるともらえる永久ゼッケン保持者です。ゼッケン番号は「４」で、私と同じく常連で、よきライバルである北山陸友会のＹ氏は「３」、広島県在住のＯ氏は「９」です。彼らとは、いつも相前後して、ゴールしており、仲良く走っています。

　前回は、両者が足をつったこともあり、１番先にゴールすることができました。今年は、練習不足もあって、彼らより先にゴールするのは、難しそうです。

　スタートするにあたり、美保神社のコトシロヌシの神に、父神オオクニヌシの鎮座する出雲大社までたどりつけるよう祈願しました。何回も完走してきた大会ですが、出雲の大神が本殿に還った直後の今回はいつもより完走したい気持ちが強いです。

　早朝、５時３０分、美保神社境内をスタート。昨年に引き続き、「しまねっこ」の応援もありました。

　個人の部だけでも５００名を超える参加者です。最初は、選手達は、道路いっぱいに広がり自分のペースで走れません。１０年前に私が優勝した時は１２９名の参加者だったとありますからこんなところにもこの大会の成長を感じます。走り始めの８ｋｍぐらいは、美保湾に面したコースなので、境港など眺めながら進みます。やがて、コースは半島の山を越え、反対側の日本海へと出ていきます。

　やがて、フェリーが停泊している七類港が見えてきます。ここが、１回目の給水所です。

フルマラソンなどでは、給水も走りながらとっていきますが、１００ｋｍマラソンでは、給水所では立ち止まって、しっかり給水します。お世話していただく方とのふれあいの場でもあります。５ｋｍも行かないうちに汗だくだくの状態でしっかり補給します。かつてないほどの高温レースであることを実感しました。

　これから先は、起伏に富んだ島根半島沿いを行くことになります。右手に見える日本海の景観を愛でながら進みます。七類から５ｋｍほど行くと、片江にある元美保関町役場前にいたります。それから５ｋｍ行くと菅浦です。そして、２３ｋｍ地点が最初の給食所、笠浦です。

　笠浦で、レース開始から２時間ぐらい、ちょうど朝食時分になります。ここでは、毎年、イカの煮つけやみそ汁、おにぎりといった心のこもった品々を用意されます。時間のロスを気にするスピードランナーは早々に立ち去ってしまいますが、長い道中、栄養補給も大事なことなので、いつもゆっくり堪能させていただきます。

　笠浦時点までは、いつもどおりキロ５分ペースできましたが、ちょっときついです。笠浦を過ぎると、旧島根町に入っていきます。野波が３０ｋｍ地点、そして、３５ｋｍ手前から桜の名所チェリーロードに入っていきます。

　チェリーロードの上りは急です。いつもなら、まだ体力的には余力があるので大丈夫なのですが、今回はすでに体力的にかなり消耗しておりきつく感じます。例年、このままチェリーロードを抜けていくのですが、今年は工事中のため途中で折り返して別の道を行きます。基本的に行き帰りのランナーとすれ違うことはないのですが、この時はすれ違うことになり、後続のランナーと距離を確認できてよかったです。この暑さで予想外に体力を奪われたせいか。すでに歩いているランナーも多かったです。

　加賀港、マリンゲート島根を抜けていくと、旧鹿島町に入っていきます。御津漁港が４５ｋｍ地点、ここから今は稼働していない島根原発の裏側を通る片句の山越えの始まりです。ここの高低差は１５２ｍあるといいます。ここまででかなり消耗してしまったのでしょう。この上りは、かなりきつかったです。

　しんどい山越えを終わると、５５ｋｍ地点にある松江市役所鹿島支所に向かいます。鹿島支所までの間に後ろからY氏が追いついてきました。もはやついていく体力が残っていません。（結局、この後、Y氏に追いつくことができず、O氏にも休憩中に先に行かれてしまいました。）

鹿島支所では、かなりへたってしまいした。この先には、このコースの最大の難所横手林道が待ち受けています。横手林道の高低差は１４８ｍです。残っている体力で乗り切れるか不安がよぎりました。タイムはもはや望むべくもないですが、完走すら難しく感じられました。かなり危機的な状況に陥ってしまいました。

　ここのスタッフの方は、選手たちの頭に冷たい水をぶっかけるサービスをされていました。ほかの選手たちもこの暑さで消耗が激しく、選手たちを支えるスタッフの方が工夫されたのでしょう。自分もやってもらうと蘇るような感覚がありました。

　これで意を決して、鹿島支所を出発、やがて延々と上りが始まります。かなりつらいです。なんとか持ちこたえて、６５ｋｍ地点の魚瀬に到着しました。ここの給水所は、１０年前に優勝させてもらった時、１位で走っていたランナーを抜き去った思い出の場所でもあります。

しかし、今年は完全にここでへたってしまい、給水はもとより、すいかなども食べて、しばし、ゆっくり過ごしました。ここからは、宍道湖岸へ抜ける最後の急坂が待ち受けています。

頭にまた、水をぶっかけてもらって出発しましたが、この坂で消耗してしまうとゴールまでたどりつけないような気がして、歩いて上がることを選択しました。過去にどんなに苦しくても走って上った坂ですが、今回はここまで追い詰められていました。

なんとか歩いて上って、一畑の津ノ森駅へと下っていきます。走り始めましたが、下りも足にきていてとてもつらいです。

津ノ森駅は、笠浦、鹿島支所につづく３回目の給食所です。ここでだいたい７５ｋｍ地点です。ここの給食所では、しじみ汁がふるまわれるのが恒例になっています。もうタイムも順位も関係ないので、ゆっくり味わっていただきました。

ここからは、平坦なコースが続きます。ペースは上がらないでしょうが、給水所でしっかり補給して、頭から水をぶっかけていけばゴールまでたどりつけそうです。

津ノ森駅からは、できるだけ楽に楽しく走ることを心がけました。ペースは上がらないのに、個人の選手で後ろから追い上げてくる選手はほとんどいません。どの選手もこの暑さに苦しんでいるのでしょう。途中、一畑電車と遭遇、遮断機で止められましたが、タイムを気にする展開でもないので気になりません。一畑電車とともに走る選手として被写体になりました。

コースは、旧平田市へと入ってきました。旧市街地の給水所で８５ｋｍです。ここでは、ぜんざいのふるまいを受けました。ゴールでもぜんざいのふるまいがあるとのこと。

ここからは、思うように動かない身体を動かしながら残り１０ｋｍ、５ｋｍと距離を刻んでいきます。常に給水所では、頭に水をぶっかけてなんとか気を取り直しました。

残り５ｋｍの最後の給水を過ぎ、いよいよゴールへ向かってカウントダウンです。走り始めてすでに１０時間を超え、タイム的にはワースト３になりそうです。かなり苦労しましたが、ゴールはもうすぐです。

本殿に還ったばかりの出雲の大神の待つ大社へ残る力をふりしぼって走ります。苦しみながら９９ｋｍを過ぎ、大社の大鳥居に至ると、ゴールの交通広場までは２００ｍほど、ちょうど信号で止められたので、蘇った出雲の大神に２拝４拍手１拝をしました。

どんなに苦労しても最後は、笑顔でゴール。気温は３０度を超え、過去１番高かったそうです。かなり厳しいレースでしたが、大遷宮の出雲大社までたどりつくことができ何よりでした。

今回で１３回目の完走となりましたが、改めてスタッフの方々の献身的な介護がなければ完走は難しいと実感しました。給水・給食でお世話していただいた方々、沿道で励ましの声をかけていただいた方々への感謝の念は堪えることがありません。

来年の２１回目の大会も、多くの方に助けてもらいながら大神の待つ出雲大社を目指したいと思います。今年は、いつもより遅い一畑電車で帰ることになりましたが、来年は本殿に還った大神にお祈りを捧げたので、「蘇り」があるかもしれません。